

医療・介護・保育「未来への投資」プロジェクトチーム

有識者意見交換会

平成 22 年 2 月 10 日(水)

15 時 30 分～16 時 30 分

共用 第 7 会議室

議 事 次 第

1. 開会

2. 有識者の発表

黒澤 一也 氏（社会医療法人恵仁会理事長）

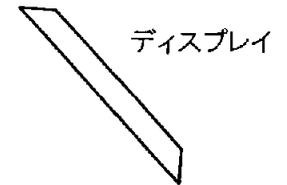
「社会医療法人恵仁会の取り組み」

3. 質疑

4. 閉会

医療・介護・保育「未来への投資」プロジェクトチーム 有識者との意見交換会

日時：平成22年2月10日(水)
15:30 ~ 16:30
場所：共用第7会議室(5階)



長妻 昭
厚生労働大臣

山井 和則
厚生労働大臣政務官

足立 信也
厚生労働大臣政務官

木下 賢志
大臣官房総務課参事官

佐原 康之
大臣官房総務課企画官

海野 耕太郎
政策企画官
(社会保障担当参事官室、
労働政策担当参事官室
併任)

野村 知司
医政局医療制度調整官

関野 秀人
医薬食品局
医療機器審査管理室長

黒澤 一也
社会医療法人恵仁会理事長

中山 弘
アドバイザー

伊奈川 秀和
社会保障担当参事官

間 隆一郎
政策企画官
(社会保障担当参事官室)

泉 潤一
社会・援護局
福祉人材確保対策室長

朝川 知昭
雇用均等・児童家庭局
総務課少子化対策企画室長

池田 千絵子
医政局経済課
医療機器政策室長

城 克文
保険局医療保険制度
企画調整官

堀井 奈津子
雇用均等・児童家庭局
総務課調査官

随
行
席

(記者席)

(記者席)

(傍聴席)

(傍聴席)

事
務
局

事
務
局

草野 哲也
老健局振興課長補佐

入口

2010.2.10



社会医療法人 恵仁会の取り組み

社会医療法人 恵仁会 理事長
黒澤 一也

恵仁会の紹介

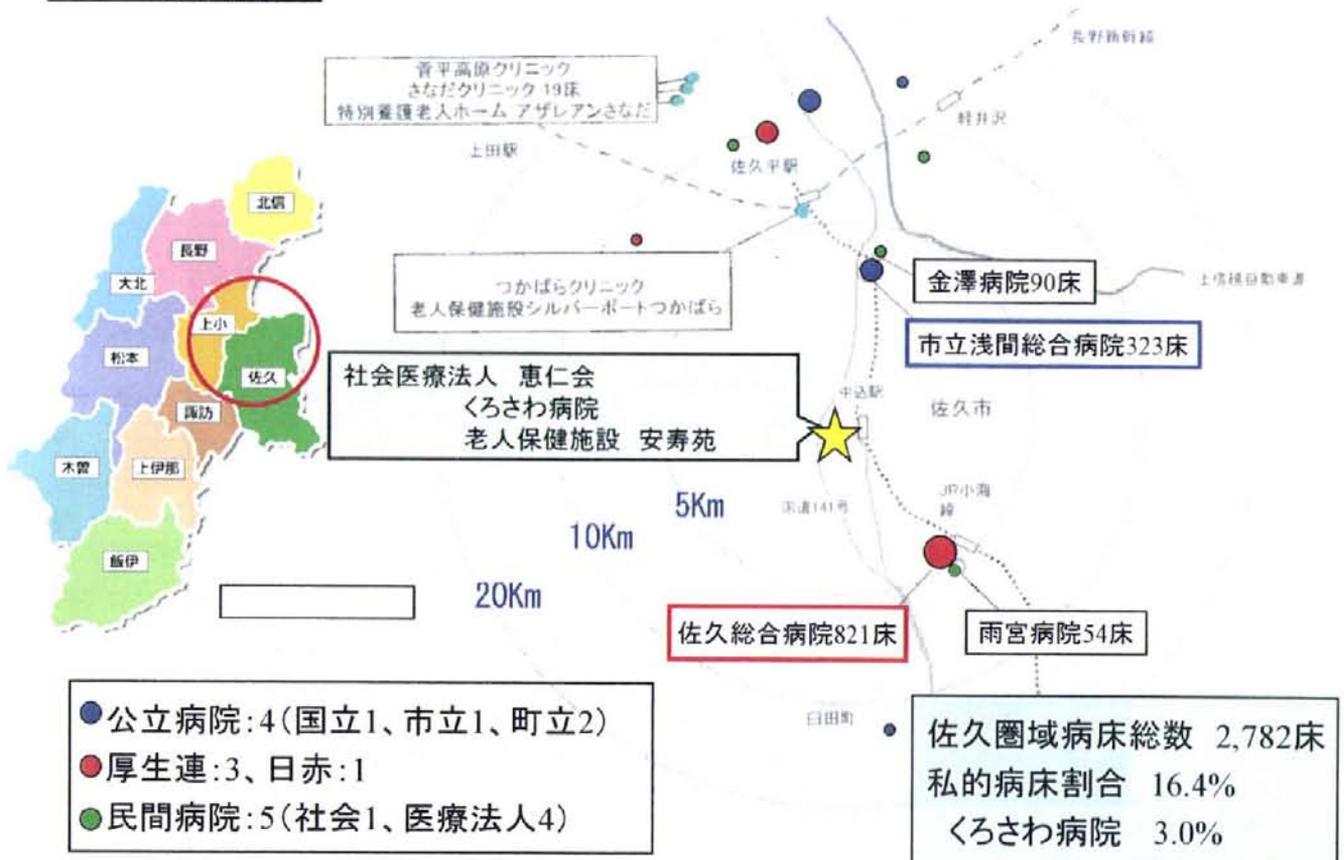


社会医療法人 恵仁会

長野県佐久市を中心に保健・医療・福祉を展開



地域特性



社会医療法人 恵仁会

法人理念

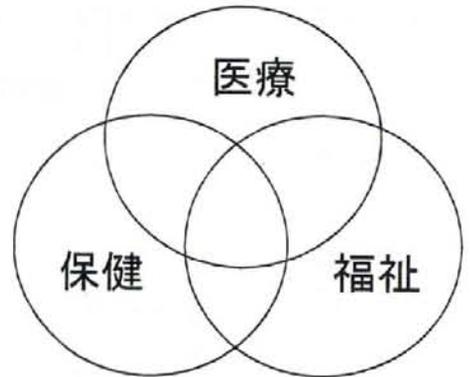
社会医療法人恵仁会は

「命を大切にし 地域の皆さまの生活を支える
保健・医療・福祉を目指します」

“安心と安全に
もっと24時間の愛情を”



住民の皆さま、患者さま、
利用者さま、職員の皆さま



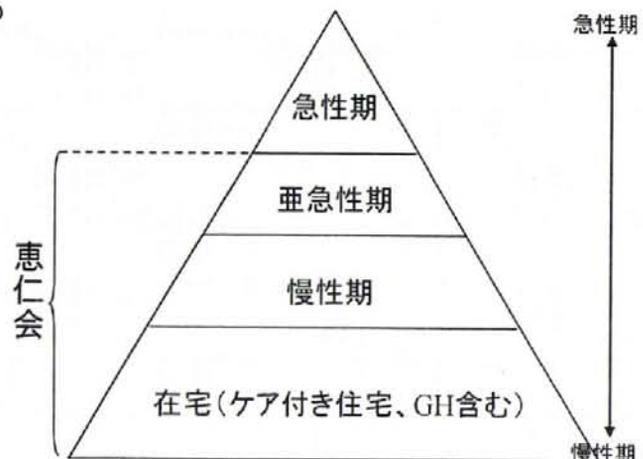
保健・医療・福祉複合体

社会医療法人 恵仁会

基本方針

理念に則り、亜急性期から在宅まで、医療を核とした保健・医療・福祉の複合体として、小規模施設※主体で、地域に根ざし質の高い医療・介護を提供していく。

※小規模施設について・・・
病院・老健は100床未満、
介護系小規模施設は20人未満



社会医療法人 恵仁会

法人職員数:518名(平成22年2月1日現在)

〔医療〕

機能評価機構認定病院(Ver.5.0)

くろさわ病院(長野県佐久市)

一般:43床(うち亜急性期6床)

医療型療養床20床

介護型療養床20床

在宅療養支援
診療所

つかばらクリニック[老健併設、無床](長野県佐久市)

さなだクリニック[有床:19床](長野県上田市)

菅平高原クリニック[季節診療所](長野県上田市)

〔保健〕

長野県地域医療計画におけるへき地診療所

ケイジン保健医学センター(くろさわ病院併設)

ケイジン健康運動センター(くろさわ病院併設:プール・温泉)

社会医療法人 恵仁会

〔福祉〕

介護老人保健施設

・安寿苑[病院併設](入所82床、通所定員40人)

・シルバーポートつかばら

(入所70床:うち認知症専門20床、通所定員40人)

グループホーム(1カ所)

地域包括支援センター(1カ所)[佐久市からの委託]

地域ケアセンター(3カ所)

訪問看護ステーション(2カ所)

ヘルパーステーション(4カ所)

デイサービスセンター(1カ所)

宅幼老所(5カ所、うち自立支援法対応2・認知症専門1)

配食サービス
(365日3食)
→院内食堂と兼務

社会医療法人 恵仁会

〔その他関連会社〕

メディコケイジン(株): 福祉用品販売・賃貸、改築・改装など
(有)けいじん: ケア付住宅運営

〔関連法人〕

社会福祉法人 恵仁福祉協会

アザレアンさなだ(特養)
大畑の家(サテライト特養)
宅老所、グループホームなど



〔嘱託施設〕

社会福祉法人 軽井沢会 きらく苑(特養)

くろさわ病院概要

・病床数: 83床; 一般床: 43床〔10:1入院基本料〕

(うち亜急性期6床)

医療型療養病床: 20床〔療養病棟入院基本料〕

介護型療養病床: 20床〔施設サービス費(I)〕

・診療科: 内科、整形外科、皮膚科、婦人科、

外科、小児科、形成外科、リウマチ科、リハ科

・職員数: 156名(法人職員数の30.1%)

常勤医師: 5名

看護師・准看護師: 51名、保健師: 1名、

介護福祉士・介護士: 25名

薬剤師: 3名、検査技師: 3名、臨床放射線技師: 6名

セラピスト(PT、OT、ST): 15名、その他リハスタッフ: 9名

事務(医事課、各センター): 19名 ほか

他施設との兼務あり



くろさわ病院概要

- ・リハビリテーション:理学療法、作業療法、言語聴覚療法
運動器(I)、脳血管疾患(I)
訪問リハステーション併設
- ・訪問診療、訪問リハ、通所リハ実施
- ・手術室1室:主に整形外科手術
- ・特殊検査:MRI(1.5T)、ヘリカルCT、内視鏡(経口・経鼻)、
超音波、DEXAなど



くろさわ病院

理念

地域の皆さまが安心して生活できるよう
質の高いまごころ医療を提供します。

基本方針

大規模病院に挟まれた地域の小規模民間病院として、
法人理念・病院理念に基づき地域に根付いたきめの
細かい医療を皆さまに提供していきます。

- ① 地域一般病院と療養病床(亜急性期～慢性期)をもとに、在宅
までカバーした継続医療を展開していきます。
- ② 情報の共有化を図り、連携を密にし、質の高いチーム医療を行
います。
- ③ 幅広いニーズに応えるリハビリテーション活動を展開していきます。
- ④ 保健予防活動を行います。

くろさわ病院患者概要

- 外来・・・約130人/日(内科、整形外科、リハビリ)
- 入院:一般床
 - 内科(約50%) 病床稼働率約90%
 - 肺炎(誤嚥性含む)、脳梗塞後遺症、認知症など
 - 整形外科(約50%)
 - 骨折などの外傷(高齢者が多い)
 - 脊椎疾患:変形性脊椎症、脊柱管狭窄症など
 - 関節鏡手術(若年者多い←紹介患者)
- 入院:療養床
 - ほとんど内科(約80%)
 - 医療型;区分2・3・・・約70%前後
 - 介護型;平均介護度4.2

さなだクリニック概要

旧真田町唯一の有床診療所(在宅療養支援診療所)

目標:外来・入院・手術を行う町のスーパークリニック

- 病床数:19床;一般床:15床
 - 介護型療養病床:4床
- 診療科:内科、整形外科、皮膚科、形成外科、リハ科
- 職員数:35名(法人職員数の6.8%)
 - 常勤医師:1名、非常勤医師:5名
 - 看護師・准看護師:11名、介護福祉士・介護士:9名
 - 臨床放射線技師:1名、セラピスト(PT):2名、
 - 事務:6名、管理栄養士1名、調理員4名
- 設備:ヘリカルCT、DEXA、内視鏡、手術室(年間80例前後)
- 患者概要:外来1日平均65人、入院病床稼働率95%

菅平高原クリニック

長野県上田市、標高約1500m

夏期シーズン(7~9月):約50万人
ラグビー、サッカー、陸上など
冬期シーズン(12~3月):約40万人
スキー、スノーボード



【実際の診療】

診療日

夏期シーズン(7月下旬~9月上旬連日)、冬期シーズン(12~3月)
上記以外のシーズンは毎週月、木、金(午後)診療

スタッフ

看護師・事務・放射線技師

医師:夏期・冬期は全国から来る非常勤医師(主に整形外科)が
診療を担当

ドクターカー導入(平成15年度~)



グラウンドでの処置



救急車への引き継ぎ

菅平高原におけるスポーツ診療



各グラウンド



アムブランス



サニアパーク



さなだクリニック: CT、入院、手術



菅平高原クリニック



くろさわ病院: MRI、入院、手術



独立法人国立病院機構
長野病院

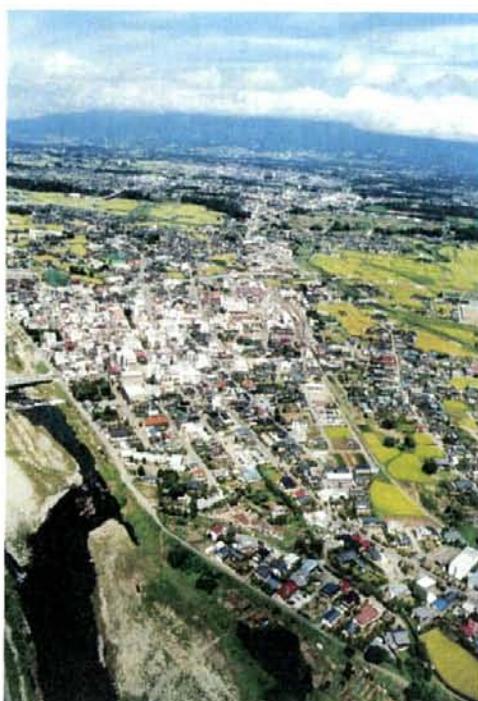
小林脳神経外科病院

厚生連小諸厚生総合病院



厚生連佐久総合病院

恵仁会の沿革



Keijin group

当法人の沿革①

昭和12年 5月:黒澤医院(産婦人科)開設

昭和43年11月:黒澤病院開設(30床)

昭和47年 4月:医療法人認可⇒その後増床

⋮
⋮
⋮

← 大病院指向などで患者減、高齢化社会を見据えて
保健・福祉領域へ進出

昭和63年11月:老健安寿苑開設(県下民間初)

平成元年 1月:ケイジン保健医学センター開設
(THP事業全国13番目認定)

平成元年11月:メディコケイジン(株)設立

平成 2年12月:病院デイケア施設承認

平成 4年 4月:社会福祉法人恵仁福祉協会設立

平成 4年 5月:訪問看護ステーション中込開設
(県下初)

平成 5年 4月:特別養護老人ホームアザレアンさなだ開設
中込在宅介護支援センター開設

当法人の沿革②

平成 8年 4月:老健シルバーポートつかばら開設

平成 9年 4月:つかばらクリニック開設

平成 9年 8月:(有)けいじん設立

平成 9年10月:さなだクリニック開設(無床)

平成10年 1月:シルバーハウスひだまり開設(ケア付住宅第1号)

平成10年 2月:くろさわ病院83床に増床

平成10年 7月:菅平高原クリニック開設
中込デイサービスセンター開設

平成10年11月:ケイジン健康運動センター開設
シルバーハウス塚原(GH)開所(県下初)

平成11年 2月:さなだクリニック19床新築移転

平成12年 4月:ヘルパーステーション中込開設

平成12年 6月:特別医療法人認可(県下初)

平成12年9月第2代理事長死去

→その後数年は経営的に非常に厳しい時期があった

当法人の沿革③

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 平成14年11月 | 宅老所露風庵開所(佐久市初) |
| 平成15年 1月 | 中込在宅サービスセンター開設 |
| 平成15年 6月 | ヘルパーステーション塚原開所 |
| 平成15年10月 | 宅幼老所のざわ開所 |
| 平成15年12月 | 長土呂在宅サービスセンター開設 |
| 平成16年 3月 | 宅幼老所つかばら開所 |
| 平成17年 8月 | 宅幼老所うちやま開所 |
| 平成18年 4月 | ケイジン地域サポートセンター開所 中込・野沢地域包括支援センター開所 |
| 平成18年 5月 | くろさわ病院:日本医療機能評価ver.5.0認定 |
| 平成19年12月 | ケイジンKid'sステーション(託児所)開設 |
| 平成20年10月 | 電子カルテ導入(法人全施設) |
| 平成20年11月 | 訪問リハステーション開設 |
| 平成21年11月 | 社会医療法人認定 |

平成元年～10年前後

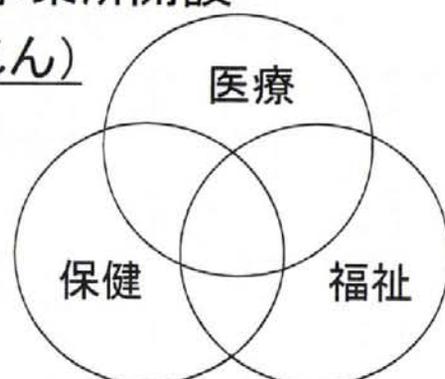
⇒保健・医療・福祉複合体として歩みはじめる

〔福祉〕

- ・介護老人保健施設開設
- ・グループホーム開設
- ・通所系サービス事業所開設
- ・訪問系サービス(看護・介護)事業所開設
- ・ケア付き住宅開設((有)けいじん)

〔保健〕

- ・保健医学センターの開設
- ・健康運動センターの開設



保健・医療・福祉複合体の利点

- 同一法人内(グループ内)で医療機関を中心に保健・福祉との連携が取り易い
 - 医療と福祉・保健との相互乗り入れ
(トータル、シームレスなサービス提供)
- 中小病院・診療所でも複合体の中心になれる(大病院に太刀打ちできる!?)
- 周辺医療機関との連携が取れやすい
 - 介護・福祉もあり受け皿が広い
- 患者、利用者増につながる

など

保健・医療・福祉複合体

- 利点:地域に即した柔軟な対応が可能であり、地域での連携の極致であり利用者にとっても最も安心できるシステム
- 欠点:その地域での他の経営体、小規模サービスを必要とせず、排除する存在にもなりかねない。その結果、地域独占になりやすく(囲い込み)、住民・利用者からのサービスの質を評価しにくい側面を持っている

参考:「医療改革と病院」2004年
二木 立(勁草書房)

人材確保・人材育成

人材確保

特に医師、看護師、セラピスト、薬剤師など

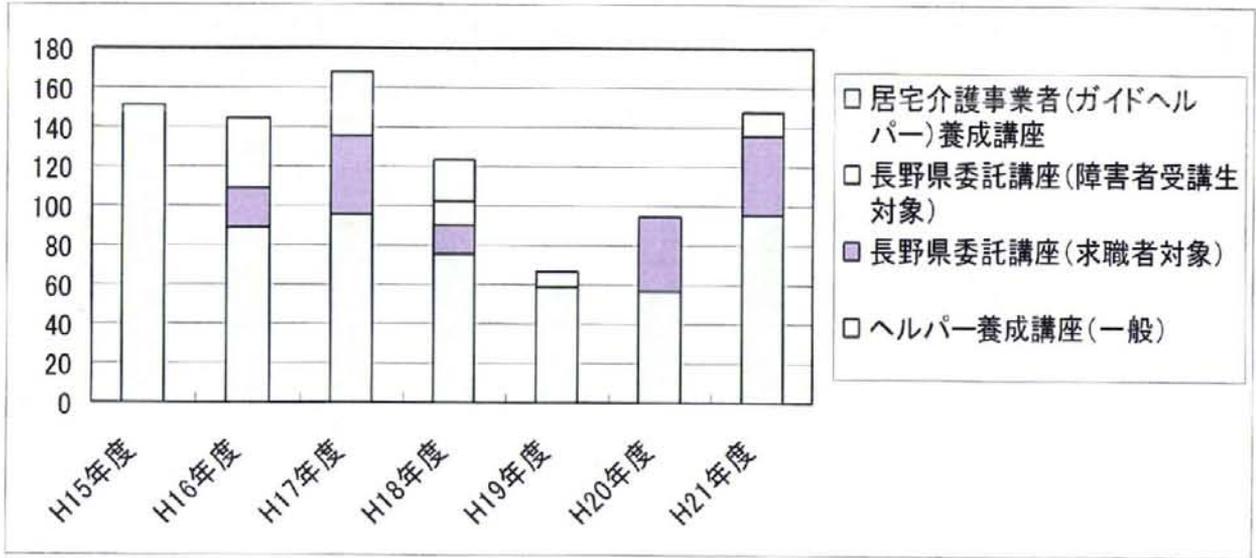
- 各種広報(HP、雑誌など)
- 地域での声かけ
- 実習生受入:リハ、介護
- ヘルパー養成講座開校
- 職員満足度向上:魅力ある職場創り
- 中学生・高校生の職業体験などの受入

長野県という特徴
(山、自然など)を
生かして人材を確保
→Uターン、Iターン



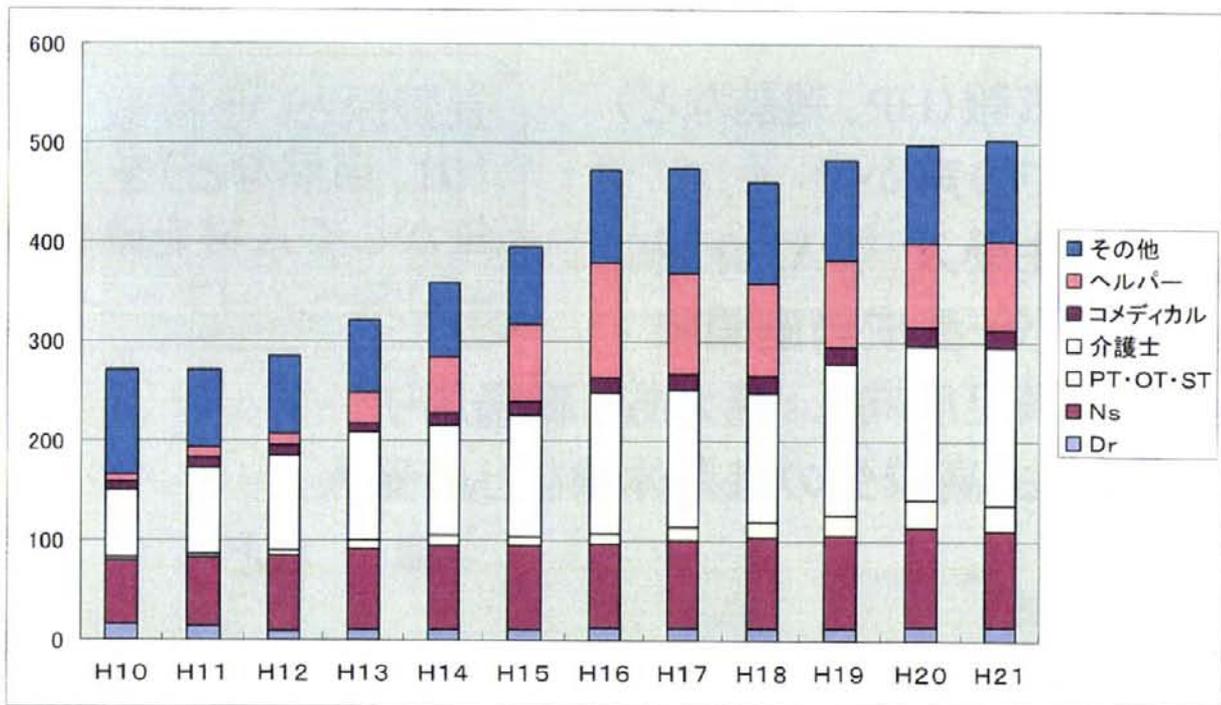
など

ヘルパー養成講座 (平成15年度～)

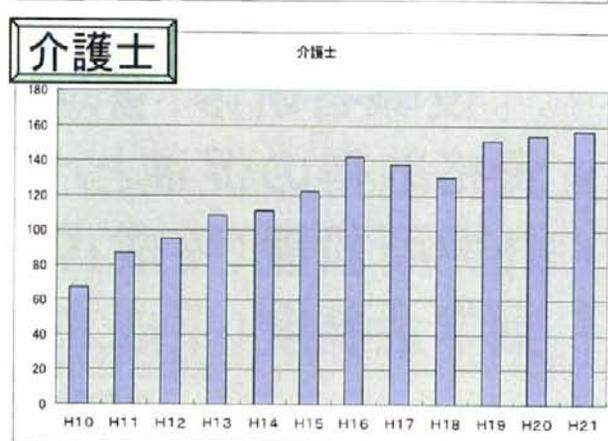
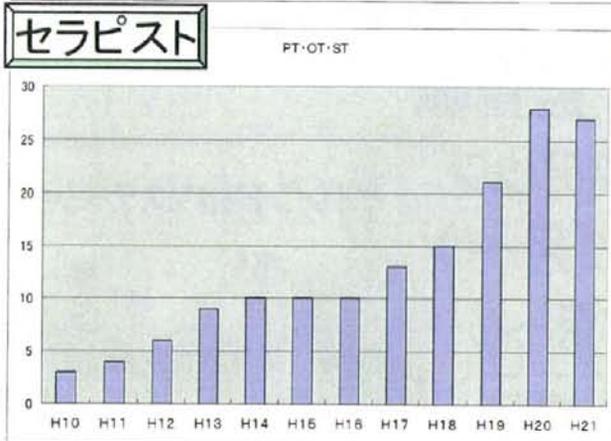
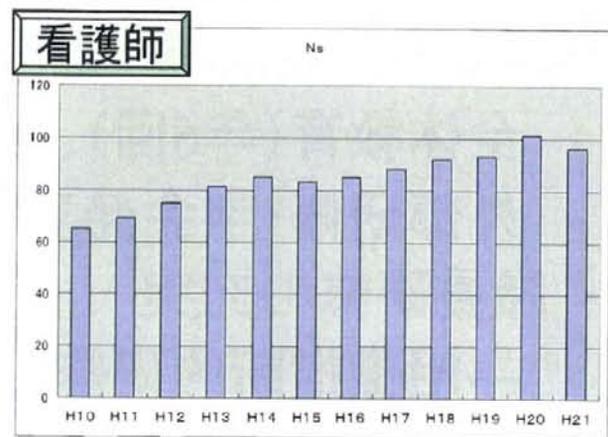
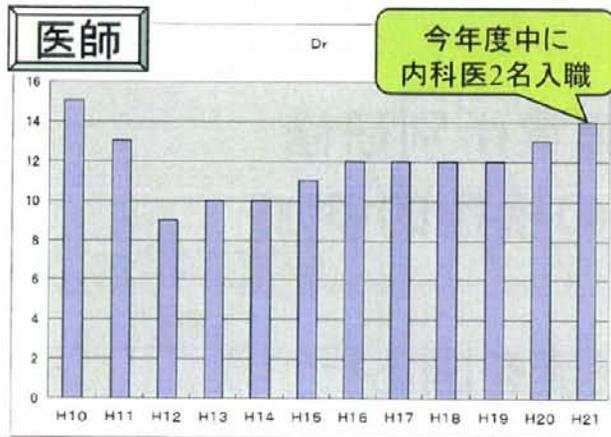


| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | H20年度 | H21年度 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 当法人関係採用者数 (人) | 57 | 10 | 19 | 20 | 10 | 16 | 12 |

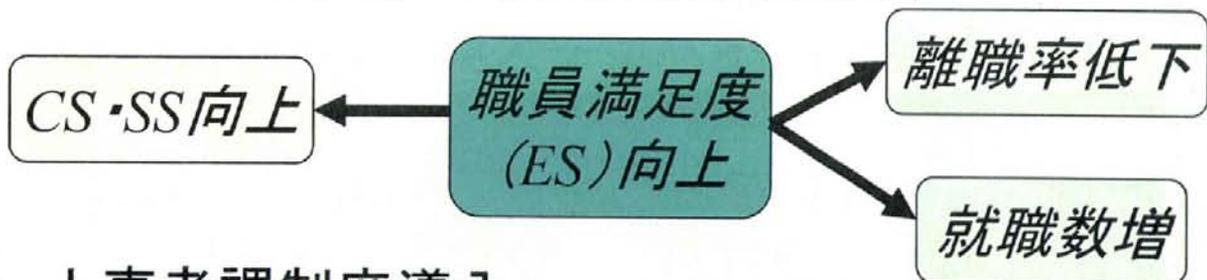
職員数推移(法人全体)



職員数推移(職種別)



職員満足度の向上



- ・ 人事考課制度導入
- ・ 目標管理制度導入
- ・ 給与体系見直し・・・待遇改善委員会設置
- ・ 人材育成システムの確立
 - ・ 階級別研修の実施: 講義、グループワーク
 - ・ 上級職選抜研修(年2クール)
 - ・ 役職者登用システム

職員満足度の向上

- 職員教育の充実
全体教育(年6回)、各事業所別研修
外部研修・学会発表への積極的参加

- 職員研修の充実

→組織横断的研修で交流を図る

階級別:初級、中級・上級、パート・準職員
役職者研修:管理職、監督職

必ずグループワークを
やります

- 資格取得の促進とバックアップ
- 託児所設置(平成19年12月～)
- 奨学金制度(平成20年3月～)

1日平均約15人利用

ケイジンKid'sステーション



互助会・各職種連携会活動

BBQ大会、ソフトバレー大会、ボーリング大会



など

多くの職員
が参加しま
す!!

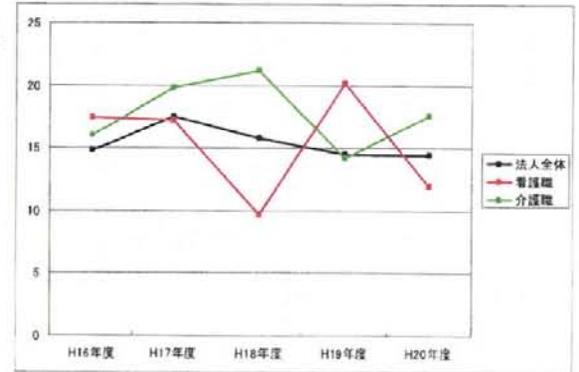
法人公認クラブ活動

- 野球部
- バスケットボール部
- 四駆倶楽部
- バトミントン部



離職率

- 法人全体:年間離職率
14.4%(平成20年度)
- 特に介護職、看護職で高い
- 年々やや減少傾向



定年以後の雇用

- 60歳以上雇用者:45名
 - 看護職:9名、介護職:20名など
 - シルバー人材:6名受入(法人全体)
 - 年々増加している
- 今後も高齢になっても働ける職場を提供

医療・介護連携体制

医療・介護連携の強化

- 法人内での連携
 - ・ケイジン地域連携室の設置(平成15年～)
 - ・各種法人内委員会における連携
 - ・各職種における連携会議開催 など
- 法人外での連携
 - ・地域連携室を中心とした**営業活動**(定期的に実施)
 - 〔医療:入院、外来、手術、画像検査など
 - 〔介護:入所、通所、訪問、介護支援など
 - ・地域連携に関する会議への積極的参加
 - ・各職種における役員派遣 など

地元医師との連携

(開業医や中小病院勤務医)

- 病院施設(手術・入院)、高額医療器機(MRI)を利用してもらう
- 外来担当医・当直医として勤務していただく

病院側のメリット

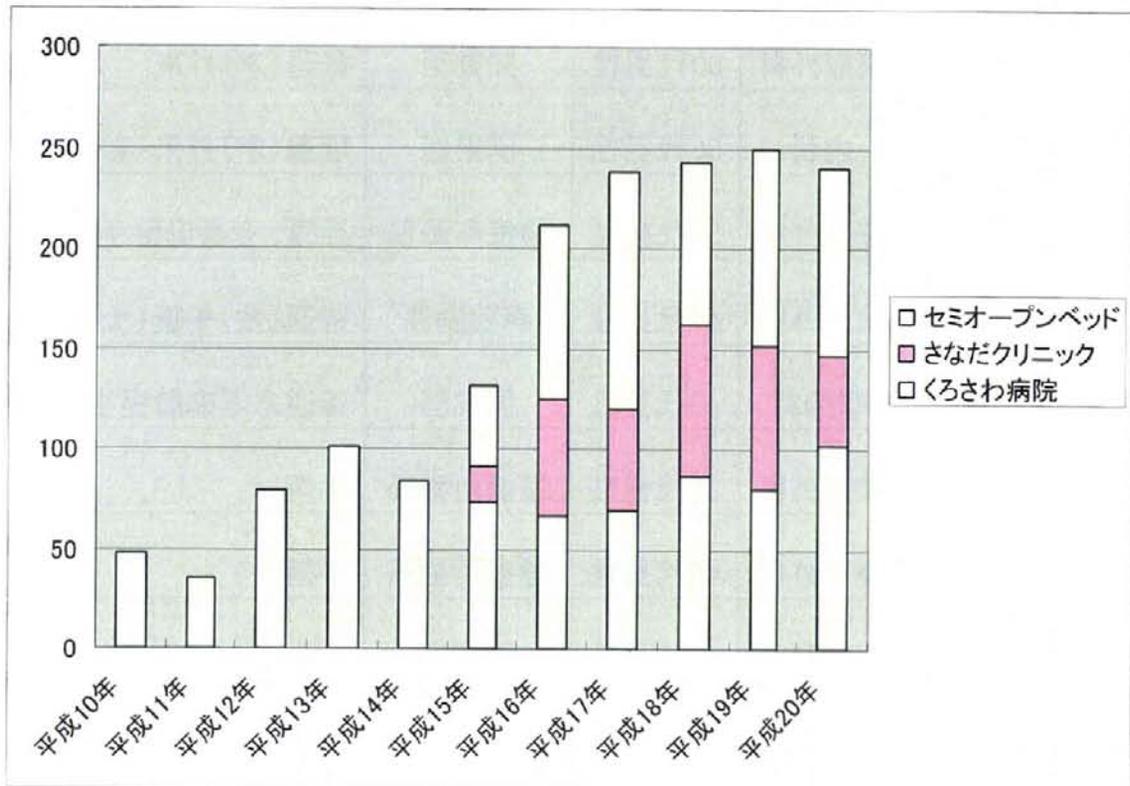
- 病床・手術室・機器稼働率がup
- 医師不足の解消

医師側のメリット

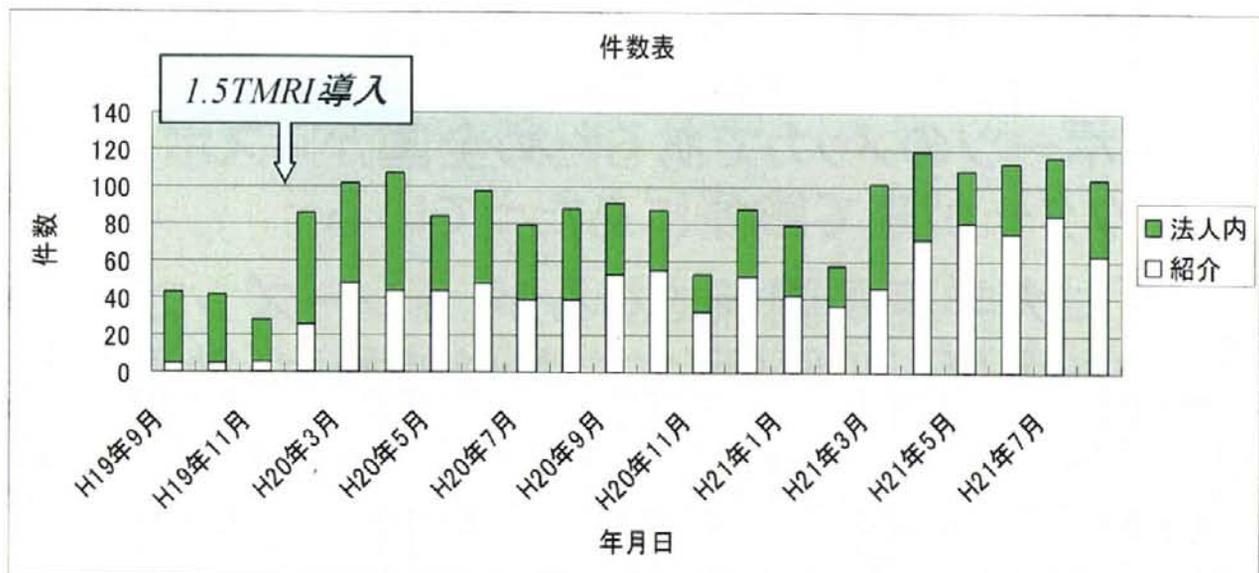
- 手術など専門治療が継続できる
- 検査が早期に実施できる

双方にとって
連携がとり易くなり
紹介・逆紹介などが
円滑に行える

当法人医療機関における手術統計



MRI稼働状況(紹介含む)



・現在CTを含め14医療機関(歯科含む)が利用

地元の医師との連携

→近所の医師に当法人の医療機関に勤務していただく

| | | | | |
|----------|------|-------|-------|----------------|
| くろさわ病院 | 整形外科 | 60代男性 | 開業医 | 毎週(木)外来 |
| | 内科 | 50代男性 | 開業医 | 隔週(木)外来・老健 |
| | 整形外科 | 30代男性 | 診療所勤務 | 手術、全身麻酔手術日当直 |
| | 整形外科 | 40代男性 | 病院勤務 | 毎週(金)午後(土)午前外来 |
| | 麻酔科 | 40代男性 | 開業医 | 毎週水曜麻酔担当 |
| さなだクリニック | 整形外科 | 30代男性 | 診療所勤務 | 手術 |
| | 整形外科 | 40代男性 | 診療所勤務 | 手術 |
| | 内科 | 40代男性 | 開業医 | 第3(日)当直 |

※通常の大学医局関係、個人等でのバイトもあり

※開業医のバックアップも請け負う(当番医交代、年末年始など休診時の対応)

菅平高原クリニックにおける スポーツドクターとの連携

- スポーツのメッカであるため全国からスポーツドクターが来て診療にあたっている
- 主に大学医局関係であるが、1シーズンに約30名ほどの医師(主に整形外科)が勤務
- 豊富な外傷症例のため、若手医師の研修や研究を行う目的もある
- チームドクターや各競技連盟などとの連携にも効果的である

佐久地域における連携

→ 多職種による連携

- 疾患別連携
 - ・ SDnet(佐久糖尿病ネットワーク)
 - ・ 連携パス研究会:主に脳卒中
 - ・ 緩和ケア研究会
 - 地域ケアにおける連携
 - ・ 地域ケアネットワーク:医師会内
 - ・ SCCnet(佐久地域ケアネットワーク):職種主体
 - ・ 佐久地域ケア研究会:事業所主体
- など

ITを用いた医療・介護、
連携、質の向上

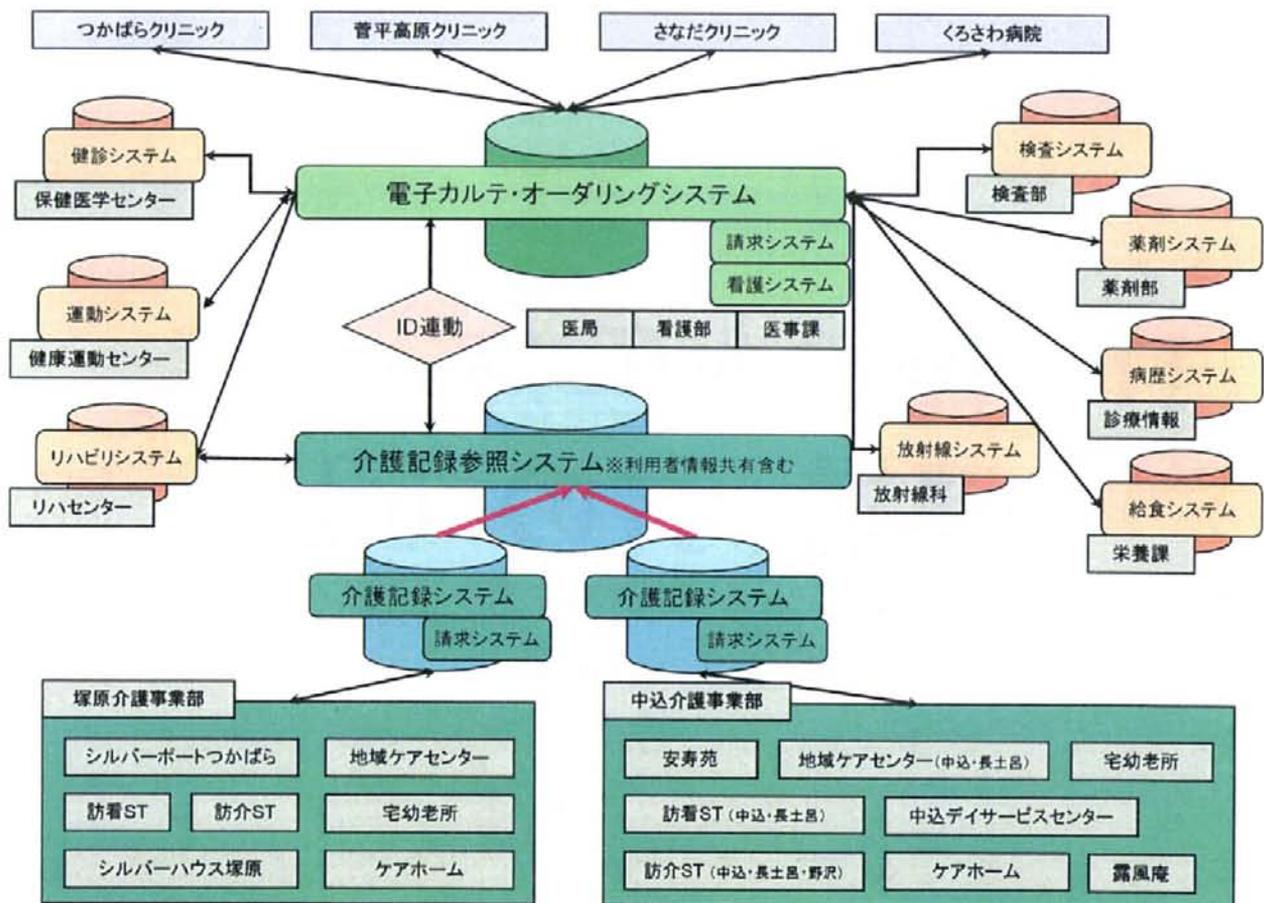
恵仁会が進めるIT化

～すべての施設を結ぶ電子カルテ～

- 法人内1人1ID・・・すべての施設利用者
- 法人内すべての施設を結ぶ
 - 〔医療系: 病院、診療所、健診部門、健康増進部門〕
 - 〔介護系: 施設、事業所(ケア付き住宅は除く)〕
- 情報の共有化、業務の効率化を目指した

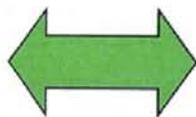
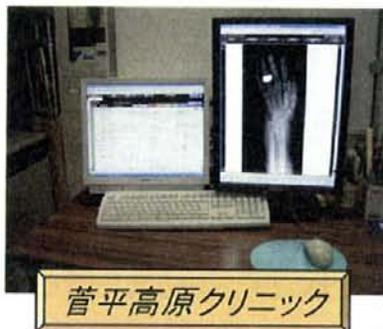


システム概念図(法人全体イメージ)



法人内電子カルテ化のメリット

- 患者・利用者情報の共有化
→法人内での治療・利用状況が把握できる
- 遠隔医療が可能
→どこの施設にいても業務が可能
→専門医のいる施設との連携が可能
- 医療施設と介護施設の連携が可能
→情報の共有化、業務の効率化



電子カルテ導入と共に...

TV会議システム

- PCを利用したTV会議システム導入予定
- 各事業所で朝礼、会議、研修に参加できる
→朝礼・会議・研修参加率のup、移動時間のcut



TV朝礼は毎日やっています！（職員全員参加）

安全管理システム

- 安全管理システム導入
- インシデント/アクシデントレポートの
入力と一元管理
- RCA(根本原因分析)可能
- e-Learning随時可能



ポータルシステム

- 全職員が利用できる院内メール
- 法人内の情報公開
- 職員間の情報交換での利用
- 議事録、お知らせ等にも利用
- 各種掲示板があり有効活用



- ・リサイクル掲示板・・・不要品、探し物など
- ・クラブ掲示板・・・各種クラブの掲示板
- ・提案掲示板・・・様々な提案を掲示し意見を聴取
- ・互助会掲示板・・・互助会活動の情報伝達
- ・ホッと掲示板・・・嬉しかったこと、良かったことなど

恵仁会におけるIT化の今後の展開

- 法人内電子カルテの熟成
 - セキュリティ面
 - あらゆる情報の共有化の展開
- 電子カルテ自体の性能up
 - 使い勝手の良いシステムへのバージョンup
 - ・電子カルテが使用できない職員がいる
 - ・メーカーの協力が必要→ユーザー会立ち上げ予定
- 法人外への展開!?
 - 法人外医療機関との情報共有
 - ・ネットワークの整備が必要
 - ・資金面

医療機関同士・メーカー
同士の協力が不可欠

恵仁会における 独自の取り組み

リハビリテーションの 多様なニーズに応える



- 急性期リハビリ
- 亜急性期リハビリ
- 慢性期リハビリ
- 維持期リハビリ
- 予防的リハビリ



○ケイジンリハビリテーションセンター

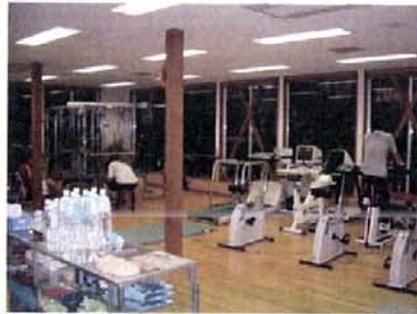
- ・病院、クリニック
- ・老健：入所、通所
- ・デイサービスセンター
- ・訪問リハステーション

○ケイジン健康運動センター

多様なニーズに応えられるようにセンター化し、
各施設にセラピスト(PT、OT、ST)を配属

保険外の部分にもセラピストを配属
(デイサービスや健康運動センター)

疾病予防温泉利用施設:ケイジン健康運動センター



- ・プール:25m×3コース
- ・ジム
- ・天然温泉(露天風呂あり)

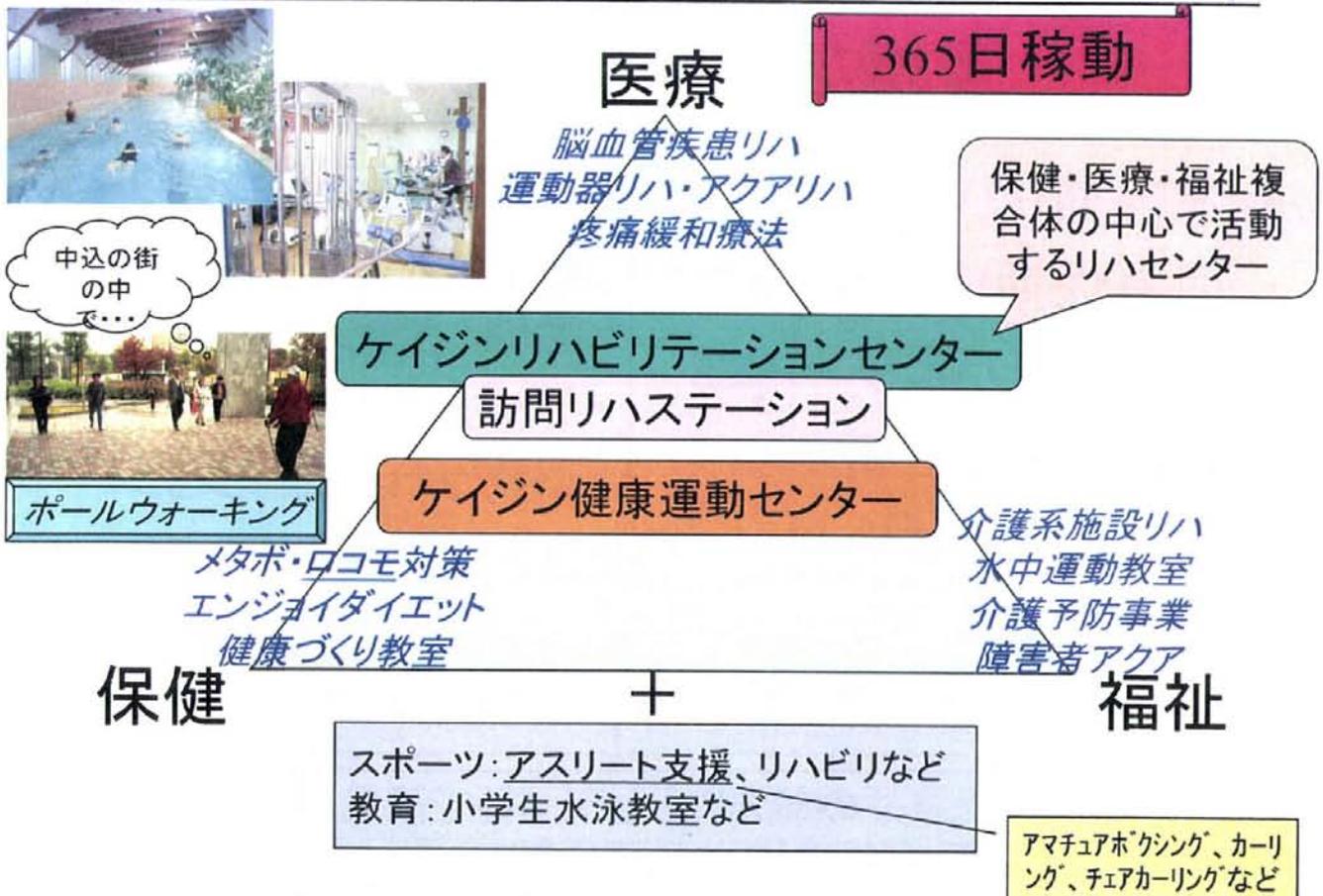
医療法第42条に基づく疾病予防施設

+鍼灸マッサージ
(自費)

- ・各種運動教室
 ダイエット教室、アクアリハビリ、水泳教室など
- ・佐久市委託事業
 転倒骨折予防教室、はつらつ水中ウォーキング
- ・病院(法人内外)、通所リハとの連携 など



ケイジンリハビリテーションセンターのコンセプト



特徴ある施設・サービス創り

～特徴のある、独自の施設創りを進める～

- 制度にとらわれないサービスの実施
- 施設に入っているでも生き甲斐を持ってもらう
 - ものづくり:裁縫、料理・漬物作り、花・野菜作りなど
 - Kid'sステーション(子供)と老健(高齢者)の交流



老健の生活機能訓練室と託児所が隣同士
→高齢者と子供たちの交流がある
→お互いに刺激になっている

病院隣の元商業施設

- 福祉ショップショールーム
 - 福祉用具を扱う店らしからぬ店構え
 - 地域の人が気軽に来れる福祉ショップ
 - 病院と直結:リハスタッフのアドバイスなど

平成22年4月
オープン

- 食堂・売店 高齢者・利用者さんが作ったものを販売
 - 職員、患者さん、利用者さん、ご家族、地域の人向け
 - 高齢者、利用者さんにも働いてもらう!?

- 地域の人が集うスペース
 - 寄り合い所、お茶飲み所、サロン



元時計・貴金属店

地域再生、新しいサービス、福利厚生...

地域に開かれた法人としての取り組み

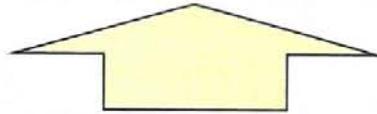
- 公開講座開催
→各地区で年3回程度実施
- 第三者委員会開催
→各施設・事業部単位等で年2回開催
- 出前講座・車座集会の開催
- 佐久商工会議所会員
→ものづくり研究会への参加
- 障害者への取り組み
- ボランティア、実習・職業体験などの受け入れ
- 地域との交流
→夏祭り開催や保育園・幼稚園などとの交流など
- ケイジんクリーンデー
→年2回の施設周囲の清掃を通して街の美化に協力



ケア付住宅の展開と 街づくり

恵仁会の施設創りのコンセプト

- 小規模施設
- 法人施設周囲、地域密着
- 既存の建物の利用
- 様々なニーズに応える



自宅に代わる住まい(家庭的)
住み慣れた地域で暮らす
医療・介護サービスが身近に受けられる
低コスト、ダウンサイジング・撤退し易さ
街づくりへの参画
様々な重症度に対応(自立～要介護状態)
金銭面での幅広いニーズに対応



ケア付き住宅(ケアホーム)

[コンセプト]

病院・施設を退院したが在宅に帰れない方が、住み慣れた地域で在宅にいるのと同じような生活ができる場所

※基本的には病院周囲に集約



- 医療機関のバックアップが身近にある
- ある程度の重症者でも入居可能

胃ろう、ターミナルなど

☆グループ全体のベッドの考え方・・・総数370床

| | | | |
|-----------------|-----------------|------------|----------------------|
| 医療 (2施設102名) | 老健 (2施設152名) | GH (9名) | ケア付き住宅 (14施設107名) |
|-----------------|-----------------|------------|----------------------|

ケアホーム(ケア付き住宅)

- 管理運営:(有)けいじんが行う
→運営・管理、入退居手続きなど
- 原則9人以下→当時は10人未満は認可が不要だったため
- さまざまなタイプあり→料金体系もさまざま(後述)
- ほとんどが有料老人ホームとして届出(法改正により)
- ケアホームスタッフ



ヘルパー

- ①居宅サービス計画に則ったケアサービスは法人内外各ヘルパーステーションからの外部サービス
- ②生活支援(生活に必要な家事一般)は(有)けいじんの介護スタッフによる

[次年度より生活支援サービスについては(有)けいじんが恵仁会へ業務委託予定]

- 医学的管理は主に訪問看護師
- 医療的backupは医療機関(法人内外)



料金体系

| | | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------|---|---------------------------------|
| 居室費 22,500～ 88,500円 | + | 生活支援費 30,000円 | + | 食費 42,000円 (30日計算) |
|----------------------------------|---|-------------------------|---|---------------------------------|

入居者負担額
 =
 94,500～
 160,500円
 +
 医療・介護保険利用
 にかかる一部負担金
 紙おむつ代等

14施設(定員6～9名)を運用

ケアホームのタイプ

| | 一戸建て | マンション・アパート |
|-------|------|---|
| 自前新築 | ひだまり | |
| 新築・賃貸 | りんご畑 | ハトリッチぬくもり ハトリッチなごみ・ふれあい どんぐり・まほろば |
| 購入・改修 | | せせらぎ・さざなみ あおぞら・そよかせ※ |
| 賃貸・改修 | ふれんず | アトウレ優 |

※印: もともとはビルを賃貸・改装→その後競売物件となり購入

赤字のケアホーム: 高齢者以外の入居者も想定し有料老人ホームの届出せず



あおぞら・そよかぜ



せせらぎ・ここなみ



どんぐり・まほろば



あすもり・なごみ・ふれあい



アトウレ優



ふれんず



りんご畑



ひだまり

ケアホーム運営における特徴

○CH入居者の主治医・・・法人内:法人外=約7:3

- ・CHに他院の先生が訪問診療にくることあり
- ・急変時に主治医のいる医療機関へ搬送

○法人外介護(居宅、通所など)を利用する入居者もいる

➡地域に開かれたケア付住宅

○入居者状況

- ・介護度高い人が比較的多い
- ・CHや居室はニーズや希望に合わせて選択
→夫婦での入居、個室希望など



○看取りも希望があれば実施可能

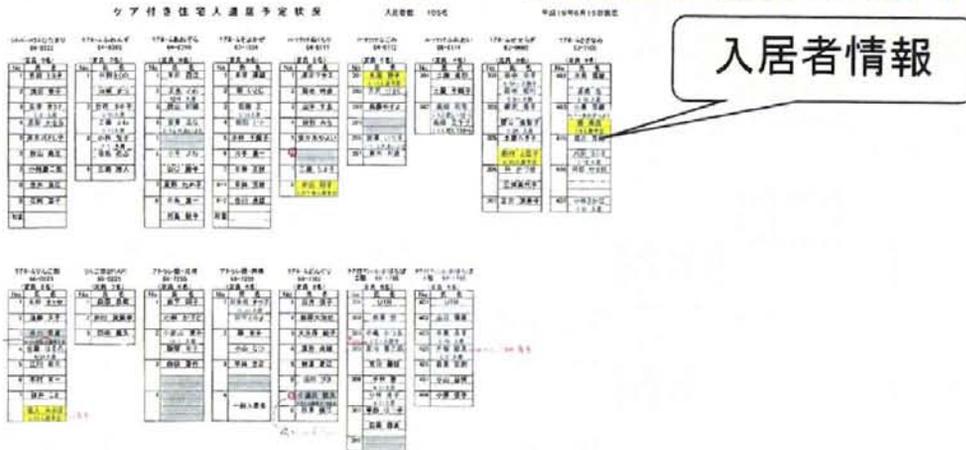
| H17年 | H18年 | H19年 | H20年 | H21年 |
|------|------|------|------|------|
| 3名 | 3名 | 7名 | 5名 | 1名 |

ケアホーム運営における特徴

○法人内における情報交換

法人内連携会議※において全ての入居者情報を交換

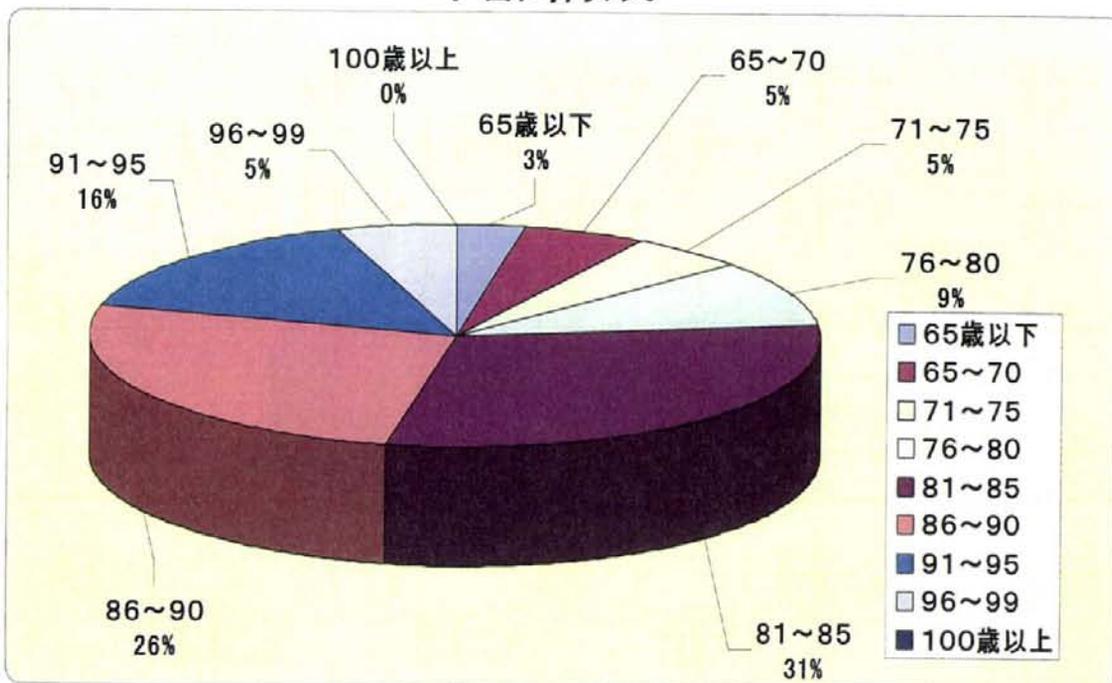
※法人内連携会議・・・連携室主催、Dr.必ず参加



※入居申し込みの際には、CHでお世話できる状態か、
医療的Backupの確認など綿密に確認して入居へ・・・

ケアホームにおけるデータ①

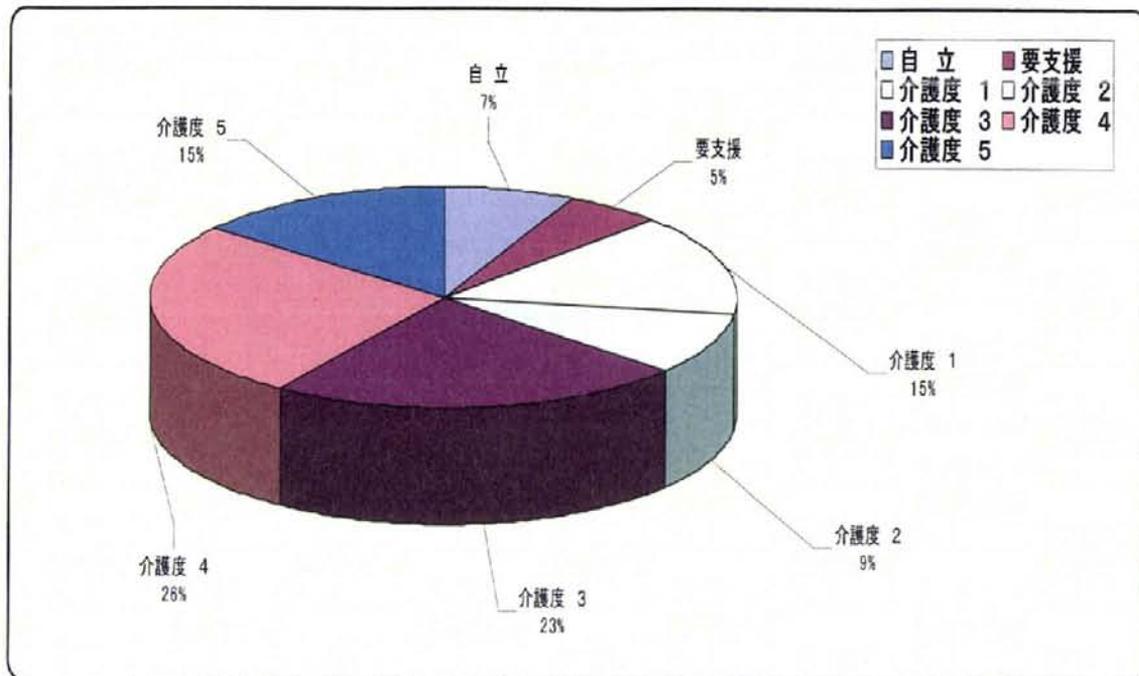
年齢構成



男女比・・・男性27%:女性73%

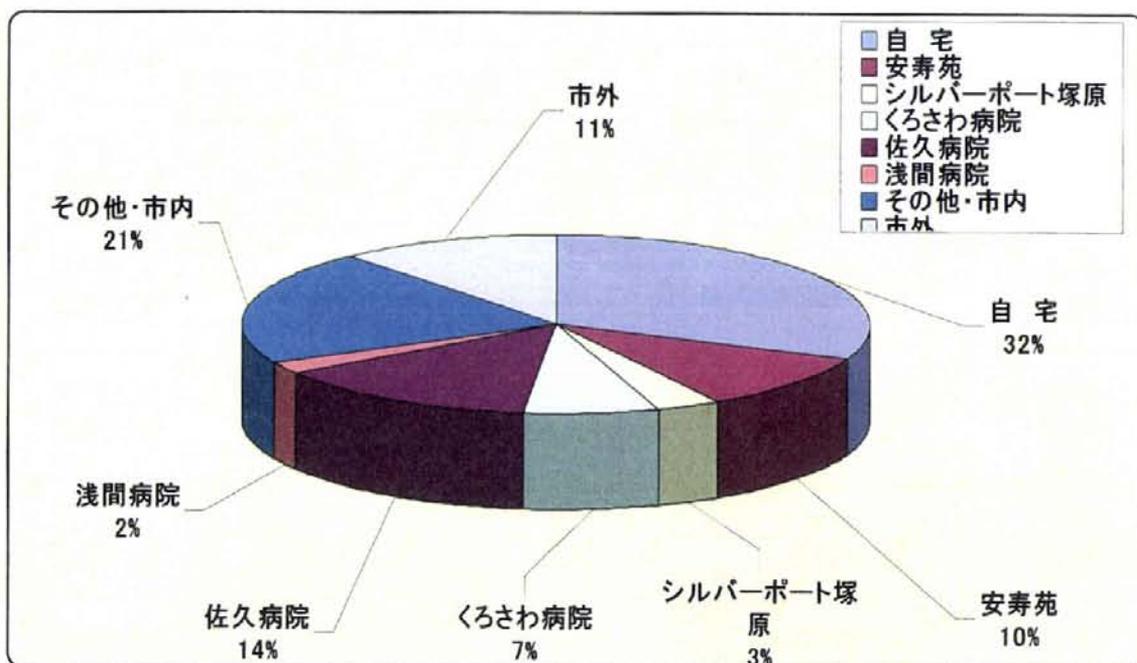
ケアホームにおけるデータ②

介護度



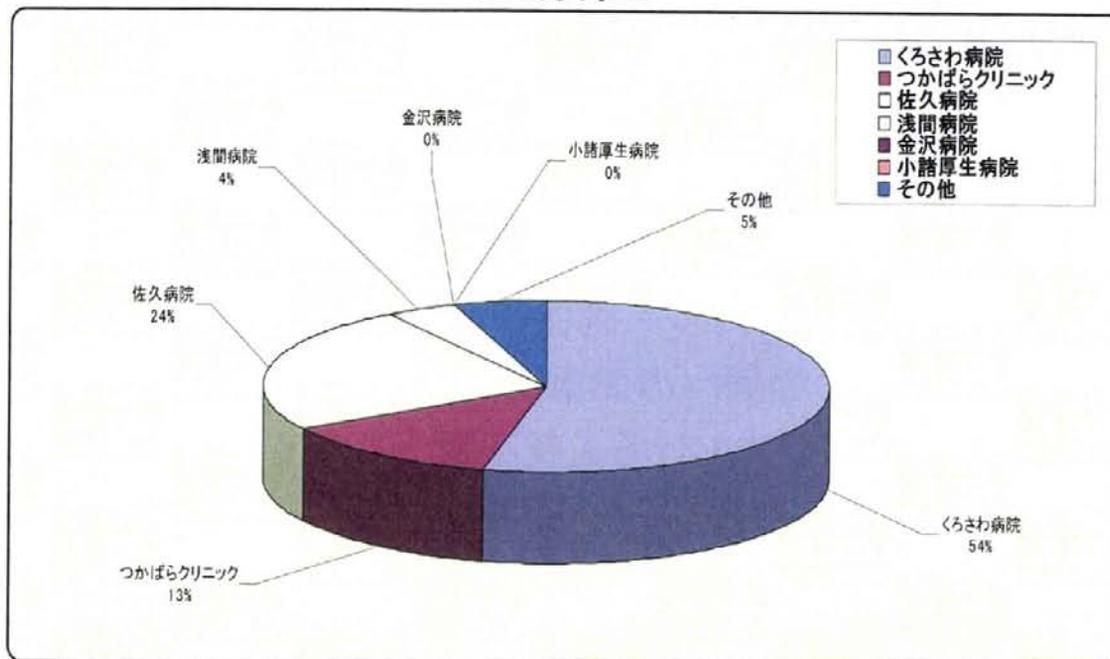
ケアホームにおけるデータ③

入居前にいた場所



ケアホームにおけるデータ④

主治医



けいじんケアホームの利点・効果

- 終の棲家になる
 - 状態が変わっても最後まで住める
- 医療・介護サービスが自由に選択できる
 - 法人外のサービスが選択できる
 - 入居前まで利用していたサービスが継続できる
- 医療機関に近いことで安心
- 様々な入居希望にも応じる
 - 毎年冬だけ入居する方もいる
 - 夫婦での入居 など
- ケアホームでの生活を通して在宅復帰された方もいる
- 住み慣れた地域で引き続き生活ができる
- 既存の建物を使用した場合、初期投資が抑えられる

けいじんケアホームの問題点

- 料金体系の問題
 - やはり施設(特養、老健)に比べると割高になってしまう
 - しかし職員報酬確保、施設維持などを考えるとある程度の料金にせざるを得ない
 - ケアホーム単独での経営は困難
- 施設(ハード面)での問題
 - 既存建物利用の場合、新設物件に比べアメニティに劣る(居室の広さ、プライバシー確保困難、狭いエレベーターなど)
 - 入居者、職員の動線への配慮困難
- 医療的バックアップにおける人材不足
 - 特に在宅医療を担う医師、訪問看護師不足
- 利用者やその御家族の権利意識の高揚 など

様々な問題があるものの、入居していただく御利用者がおり、それを支えるスタッフも頑張っています！

今後の法人の展開⇒ 街造り

- ・自分の住んでいた街に暮らす
- ・または家族が近くにいる街に暮らす
- ・医療機関や介護施設が身近にある…安心
- ・病院でも施設でもない家庭的な家に住む
 - 空き家の利用
 - 街の活性化
 - 雇用の促進
 - 二次的な人口増加
 - 商業誘致
 - 街全体の活性化



新幹線佐久平駅ができ中込の街は過疎化…
なんとかせねば！

保健・医療・福祉を通して街造りに参画

Keijin Silver town 構想(案)

- 過疎化した中込の街を、高齢者や障害者、子供が元気に生活できる街にする
- 空き店舗・住宅・スペースの有効活用
- 地域のニーズ・風習に合った家・施設・サービスを用意
- 特に住まいの代わりとなる施設(ケアホームなど)は街の中であって、地域の人と交流できるようにする
- 商業誘致: スーパーなど
- 地元商店街とのコラボレーション
- 交通の要所としての価値: 中込駅、高速バス停 など



今後のケアホームの活用方法

- 現在、当法人の病院入院患者、老健入所者で特養待機者が約100名
- 佐久市内で待機者約600名



ケアホームの活用で特養待機者を減らすことができるか？

料金体系などの問題がクリアでき、ケアホームが運営しやすくなれば、ケアホーム自体やそれを利用する入居者も増え、ひいては街の活性化にもつながるのでは…

これからの佐久の医療・介護（私見）

1. 医療機関・介護施設の情報共有・機能分化
各医療機関・介護施設が機能分化し、コンセプトや得意分野などを明示して、それを地域で共有しうまく連携をしていく。
2. 地域住民の教育
各医療・介護機関の特徴を踏まえつつ、かかりつけ医・専門医やかかるべき医療機関、在宅医療、利用すべき介護サービスなど正しく選択できるよう教育していく。
3. 地域との連携
地域住民との連携（ニーズの汲み取りや医療・介護への住民参加など）、また医療、介護分野以外（街づくり、ものづくり、住まいづくりなど）での連携も必要である。
4. 夢を持った経営を实践
夢を持って経営することで、人（職員や子供、地域の人々）が育ち、街が活性化し、医療・介護における連携はもちろんのこと、他の産業や地域住民とのコラボレーションも実現し、すばらしい街づくりにつながっていく。

恵仁会の取り組みについて

平成14年度

厚労省医政局委託：医療施設経営安定化推進事業
「在宅医療、介護分野を重視した
中小病院経営に関する研究」

平成17年度

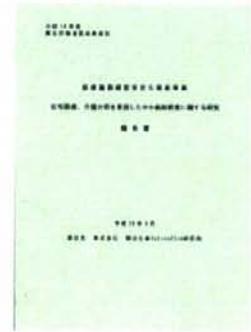
経済産業省サービス産業人材育成事業
「医療経営人材育成事業」ケース

平成18年度

厚労省医政局委託：医療施設経営安定化推進事業
「良質な医療提供体制の構築に向けた
今後の中小病院の役割に関する調査研究」

平成18年度

独立行政法人福祉医療機構助成研究
「医療・介護の連携に関する研究事業」



<http://www.keijinnet.or.jp>

恵仁会

検索

